

令和4年度認定

計画名 42 栃木県立博物館文化観光拠点計画

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R4			R5			R6			R7			R8	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績
観光目的客の県立博物館入館者数(人)	19,000	21,810	115%	18,900	24,397	129%	20,900			23,000			30,000	
県立博物館外国人入館者数(人)	100	159	159%	200	491	246%	300			400			500	
県立博物館入館者の満足度(%)	63.6	70.1	110%	65.6	70.5	107%	67.6			69.6			71.6	
デジタルミュージアムのアクセス数(アクセス数)	15,000	5,079	34%	30,000	72,272	241%	100,000			200,000			460,000	
サテライト展示等における満足度(%)	-	-	-	65.6	72.6	111%	67.6			69.6			71.6	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

(分析)

- ・計画目標のうち、観光目的客の入館者数、外国人入館者数については、R5年度は宮内庁と共催で実施した特別企画展の実施や、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴う来館者数の回復、インバウンド団体客の誘客等により、目標値を大きく上回った。
- ・特に外国人入館者数については、県内旅行会社等との連携による海外青少年交流事業含む複数の団体ツアー誘致が目標値達成に大きく寄与した。また、同ツアーの行程には、世界遺産「日光の社寺」見学や農家民泊、日本文化体験等が含まれており、博物館見学時にはツアー参加者から日光東照宮等に関する質疑もあったことから、その地域の歴史文化を深く知る上で、県立博物館の有用性が旅行会社等に認識されたと考える。
- ・満足度については、著名声優による音声ガイドや全館Wi-Fi整備等により、展示の魅力をもっと引き出すことができ、目標値達成につながった。
- ・デジタルミュージアムのアクセス数については、国宝・重文や著名作品の高精細画像、日光にまつわる無形の文化資源等に関する動画といったコンテンツの追加により魅力が増大するとともに、ジャパンサーチとの連携やとちぎ旅ネットへの記事掲載等によって認知度が向上した結果、目標値を大きく上回った。

(評価)

- ・各計画目標において目標を達成できた。
- ・特に外国人入館者数については目標値の約250%を記録し、デジタルミュージアムのアクセス数に至っては、計画策定時の目標を倍増させたにもかかわらず、達成率は約240%に至った。
- ・サテライト展示等における満足度については、R5実績は移動博物館を実施した芳賀町総合情報館等のアンケート調査結果であり、評価項目数などが一定でないことから、R6以降は調査手法を改善していく必要がある。

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R4	R5	R6	R7	事業類型ごとの実績額
1-①	とちぎ文化芸術デジタルアーカイブシステム構築事業	・とちぎ文化芸術デジタルアーカイブシステム構築 ・とちぎデジタルミュージアム"SHUGYOKU"(珠玉)公開	・1-②でデジタル化した文化資源等のデジタルデータの管理、一般公開用にデータ登録 ・とちぎデジタルミュージアム"SHUGYOKU"を通じた情報発信			58.2百万円
1-②	県内文化資源高精細デジタル化	・無形の文化資源の記録映像作成 ・日光二社一寺宝物等の高精細デジタル化	・無形の文化資源の記録映像作成 ・東照宮の宝物をはじめ、県立博物館の収蔵品等の高精細デジタル化			
1-③	「とちぎの逸品展(仮称)」開催事業	-	-			
1-④	ガイド養成事業	-	・共同申請者である栃木県通訳案内士協会とともに、R6からの養成事業に向けた調整を実施。			
1-⑤	新たな体験メニューの開発・実施事業	-	・共同申請者であるとちぎDMO・JTB宇都宮支店とともに、R6の体験施設整備を見据えた検討を実施。			
2-①	とちぎデジタルミュージアム(仮称)開設・運営事業	とちぎデジタルミュージアム"SHUGYOKU"(珠玉)開設【1-①再掲】	・R4年度に開設した「とちぎデジタルミュージアム」の英語版サイトの構築・公開			20.5百万円
2-②	エントランス等展示刷新	-	-			
2-③	テーマ別「とちぎの文化・自然」解説映像作成事業	-	・栃木県の文化・自然を深掘りする英語字幕付き動画の作成			
2-④	ARコンテンツ作成時業	-	・日光の自然や歴史にまつわるARコンテンツの作成			
2-⑤	音声ガイドシステム作成事業	・声優の緑川光氏等による音声ガイド作成・公開(標準語・栃木弁)	・声優の緑川光氏等による音声ガイド作成・公開(標準語・栃木弁)			
2-⑥	デジタル機器導入事業	・8K70インチタッチパネル式デジタルサイネージの導入	・スマートグラス及びコントローラ等付属機器の導入			
2-⑦	多言語化事業	-	・R4年度に開設した「とちぎデジタルミュージアム」掲載コンテンツの多言語化(英語)の実施 ・2-①で構築した「とちぎデジタルミュージアム」英語版サイトへの公開			
2-⑧	デジタルミュージアムを活用したサテライト展示、特別講座の実施	-	・移動博物館や館外での集客イベント、特別講座等でデジタルミュージアムの周知を実施			
3-①	企画乗車券造成・販売事業	-	・共同申請者である関東自動車とともに、路線バスを活用した企画乗車券の造成			

3-②	サイクルツーリズム促進事業	-	・県立博物館を經由し、日光へ至る県内文化観光の促進に資する魅力あるモデルルートの形成 ・上記モデルルートを取り入れた旅行商品の造成		0.7百万円
4-①	ユニークベニュー造成	-	-		-
4-②	県内文化施設等連携促進事業	-	-		
5-①	とちぎ旅ネット特集ページ作成及び多言語化	-	・栃木県公式観光サイトである「とちぎ旅ネット」に特集ページを多言語（日本語・英語）で作成		1.4百万円
6-①	Wi-Fi整備	-	・県立博物館内のWi-Fi環境の整備		
6-②	無形文化財等上映施設整備	-	・事業番号1-②、2-③で作成した映像を質の高い映像で視聴できる上映設備の整備		21.6百万円
6-③	文化体験スペース整備	-	-		
各年度ごとの実績額→		47.7百万円	54.7百万円		102.4百万円

#### ④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業1-②については、日光二社一寺、県立博物館・美術館収蔵品に加え、新たに県内に点在する重要文化財や著名作品等の撮影に着手し、これまで高精細画像の無かった貴重な文化資源を撮影することにより、文化資源の記録保存に資するとともに、事業2-①デジタルミュージアム“SHUGYOKU”にて広く一般公開することにより、それらの認知度向上に大きく寄与した。また、無形の文化資源の記録映像については、動画投稿サイトで多くの方に視聴されるなど、国内外に本県文化資源の魅力を発信することができた。</li> <li>・事業2-③については、これまでにない切り口から栃木の文化・自然を深掘りする映像を英語字幕を付して作成したことにより、外国人富裕層をメインターゲットとする宿泊施設等のスタッフ教育にも活用されるなど、拠点施設である県立博物館の持つ知見等を広く県内観光事業者に伝えることができた。</li> <li>・事業6-①、6-②により、デジタルミュージアム“SHUGYOKU”やテーマ別解説映像等を栃木県立博物館内で有効に活用できる設備が整い、ソフト面だけでなくハード面でも県立博物館の魅力が増大し、文化観光拠点施設としての体制が整いつつある。</li> </ul> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は概ね計画どおり実施できた。</li> <li>・事業1-⑤については、R6に実施する文化体験スペース整備（事業6-③）にあわせて準備を進めることとした。</li> </ul>
---

#### ⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	栃木県立博物館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		日光二社一寺や県立博物館・美術館の代表的収蔵品に加え、県内に点在する重要文化財や著名作品のデジタル化を実施し、とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”にて一般公開を実施した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		引き続き、過年度に整備した専用アプリ「とちはくNavi」及び館内Wi-Fiを活用し、来館者に多言語含む解説を実施した。 また、著名声優による音声ガイド（個人のスマホ等の汎用ブラウザで利用可能）のコンテンツを追加し、質の高い音声とともに展示品等の詳細解説を提供している。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		引き続き、過年度に整備した多言語解説（専用アプリ「とちはくNavi」による多言語解説等）を活用した。 また、デジタルミュージアム“SHUGYOKU”の英語版を開発し、これまで英語解説が存在しなかった二社一寺の宝物等についても多言語で発信を行うとともに、新たに外国人観光客向けの栃木県の自然・文化の魅力を深掘りする映像を英語字幕付きで作成した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		引き続き、市町や文化施設、教育機関との連携を実施するとともに、共同申請者である観光事業者・交通事業者等との連携体制を構築した。 特に路線バスによる企画乗車券造成、サイクルツーリズム商品造成等を通じ、沿線施設も含めた広域的連携を行った。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		引き続き、来館者向けのアンケート調査や入館者数調査等を実施し、来館者の満足度等を把握している。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		引き続き栃木県立博物館協議会による評価を実施するとともに、拠点計画で設定したKPIに基づき、達成状況のモニタリングを実施した。

#### ⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
(公社) 栃木県観光物産協会（とちぎDMO）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内において、博物館施設が観光誘客を意識した取組を実施する事例は希少であり、引き続き県内の観光振興に寄与していくことを期待している。</li> <li>・拠点計画の2年目が終了した時点で、サイクルツーリズム商品や路線バスを活用した企画乗車券等、県立博物館と世界遺産「日光の社寺」及び日光杉並木街道等を周遊しつつ沿線の観光施設への立ち寄り等を促すインセンティブを付与した具体的な商品が造成されるなど、文化施設と観光事業者との連携が積極的に実施されている。</li> <li>・とちぎデジタルミュージアム“SHUGYOKU”やとちぎ旅ネットへの記事掲載等により、Webを通じた情報発信も継続的に実施してきているが、更なる誘客を図るためには、これまで以上にプロモーションに力を入れていく必要があると考える。</li> </ul>
(株) JTB宇都宮支店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド含む富裕層誘客において、地域の文化資源はその中心コンテンツとなっていくもの。引き続き拠点計画に則った取組を実施することにより、その地域ならではの文化体験やサステナビリティ等のトレンドに応じることが出来る等富裕層が求める「ならではの旅行」を創出することで富裕層のニーズに応え、観光客数及び旅行消費額増加につながっていくことが期待される。</li> <li>・令和5年度には、既に富裕層誘客に一定の実績のある日光杉並木街道を自転車で走るツアーに、拠点施設である県立博物館や沿線の文化施設を絡めた商品を作成することができ、また、そのガイドンス映像にもなるテーマ別動画がWeb上で公開されるなど、事業間でのシナジー効果も確認されている。</li> </ul>

#### ⑦今後の改善の方向性

- ・外国人観光客に特化した満足度調査等は実施していないが、同客層の満足度向上を図るため、R6年度以降、多言語解説を更に充実させるとともに、現在の専用アプリによる県立博物館多言語解説を汎用ブラウザによる情報提供に移行する。
- ・R6事業にて体験施設を整備することにより、ユニークベニュー事業をはじめとする新たな体験メニューを提供できる体制を整え、新たな客層を開拓するとともに、来館者の満足度向上を図る。
- ・引き続き共同申請者である観光事業者・交通事業者等と、計画の進捗状況についての情報共有を図るとともに、専門的知見からの助言等を聴取し、事業に反映する。